

会期中は休まず開館しています。

親子であそぶ！ 土・泥・ねんど 2011

みんなであそぶプログラム

[毎日実施 10:00-16:00]

ちぎる、つぶす、きる、おす、のばす、つまむ、ねじる、ぬる、けずる、みがくなどの動作をきっかけに、いろいろな遊びが館内いっぱいにひろがります。また、愛知県陶磁資料館の紹介展示や造形作家、坂野晃平さんの作品の特別展示もあります。直接作品に手を触れ「陶」の手ざわりを感じます。

あつまるあそぶプログラム

[土・日曜日、祝日実施 14:00-14:30 15:00-15:30]

家族や友達だけでなく、たくさんの人と一緒にたまみれになって遊びます。「どろどろでなぞる」など

たべるあそぶプログラム

[日曜日実施 11:00-12:00 14:00-15:00]

食べることそのものを感じながら楽しむプログラムです。「どろだんご」

愛知県陶磁資料館の特別プログラム

親子でアート～0才からの作品鑑賞「ベビーカーツアー」

小さな子どもと親のためのギャラリーツアーです。普段、小さな子ども連れでは遠慮しがちな美術館や博物館ですが、この日は安心してお出かけください。「現代陶芸作品」を中心に、学芸員とともにゆっくりお話をしながら作品鑑賞をします。

とき：8月17日(水)、20日(土) 14:00-14:40

ところ：愛知県陶磁資料館

対象：0～3才ぐらいまでの子どもと親(定員：各日6組)

申し込み方法：愛知県陶磁資料館

ホームページにてご確認ください。(先着順)

参加費：無料(企画展観覧料500円が必要)

特別プログラム [事前募集]

●あなをほる

2日間、ただひたすら穴を掘ることに没頭するあそびです。

とき：7月27日(水)、28日(木) 10:00-16:00(宿泊はしません)

ところ：愛・地球博記念公園内

対象：小学4年生以上の子ども(定員：10人 両日参加できる方)

●土どろ・ウォーキング

愛知県児童総合センターで思いきり「土」と遊んだあとは、愛知県陶磁資料館に歩いて出かけ、学芸員と一緒に作品鑑賞などをおこないます。

とき：8月13日(土)、21日(日) 11:00-16:30

ところ：愛知県児童総合センターと愛知県陶磁資料館

対象：小学生以上の子どもと大人(定員：各日10組)

※両館の入場料及び帰りのバス運賃が必要

●土を焼く 1日かけて土を焼きます。

とき：8月27日(土) 11:00-21:00、28日(日) 9:00-11:00

ところ：愛知県児童総合センター(宿泊はしません)

対象：小学生以上の子どもと大人(定員：10組 両日参加できる方)

※高校生以上は入場料が必要

※特別プログラムの申し込み方法：

電話、または館内に直接申し込んでください。(先着順)

夏季特別企画「親子であそぶ! 土・泥・ねんど」は愛知県児童総合センターと愛知県陶磁資料館の連携プログラムです。

愛知県陶磁資料館

Aichi Prefectural Ceramic Museum

〒489-0965 愛知県瀬戸市南山口町234番地

TEL 0561-84-7474 http://www.pref.aichi.jp/touji

開館時間=9:30-17:00(入館は16:30まで)

休館日=毎週月曜日(ただし月曜日が休日の場合はその翌日)

常設展観覧料=中学生以下無料、一般400円、高大学生300円

| 同時開催 | 企画展 東海現代陶芸 一思考する新世代 - 会期=2011年8月6日(土)~10月2日(日)

観覧料=中学生以下無料、一般500円、高大学生400円

○プログラムは予告なく変更することがあります。

愛知県児童総合センター

〒480-1101

愛知県愛知郡長久手町熊張(愛・地球博記念公園内)

TEL 0561-63-1110

http://www.acc-aichi.org/

開館時間=9:00-17:00

入場料=中学生以下無料、その他300円

7月の休館日=4日、11日 8月は無休

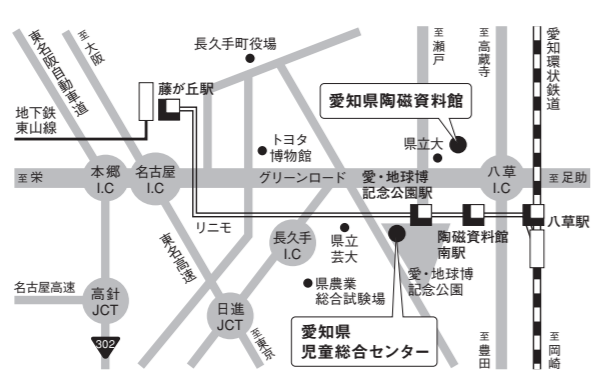
9月の休館日=5、12、20、26日

公共交通機関で...

地下鉄東山線「藤が丘」、愛知環状鉄道「八草」からリニモ「愛・地球博記念公園駅」下車

車で...

東名高速・日進JCT経由名古屋瀬戸道路長久手ICから足助方面すぐ(愛・地球博記念公園 北駐車場利用)



愛知県児童総合センターは「遊び」をテーマにした県立大型児童館です。1996年の開館以来、子どもと大人がともに、心と身体をフルに活用して遊ぶことで、新しい気づきが実感できる時間と空間を提供しています。また、遊具や遊びのプログラム開発、よりよい児童環境のためのネットワーク作り、セミナー・研修、調査・資料収集、移動児童館など多岐にわたる活動を行っています。



子どもとおとな、ドキドキ発見!

ACC

Aichi Children's Center

レター

News Letter 2011 夏

「てらんかい」と「あそび」
元氣スイッチオン!! あつまれ! あいちのじどうかん
子育てのおはなし/ACCのココがすき!/募集とお知らせ

愛知県児童総合センター開館15周年記念 夏季特別企画
親子であそぶ! 土・泥・ねんど2011



親子であそぶ! 土・泥・ねんど 2011

2011年7月16日(土) - 8月31日(水)

愛知県児童総合センター(愛・地球博記念公園内)

開館時間: 9:00-17:00 会期中は休まず開館しています。

入場料: 中学生以下無料、その他300円

主催: 愛知県児童総合センター(財団法人愛知公園協会)

愛知県陶磁資料館

協力: アートエデュケーション研究会



「てらんかい」と「あそび」

田原幸二さんより —

実は自分の作品を飾った後なんとなく違和感を感じ、この企画には合わないのではないか？と少々気になっていました。しかし、企画が始まってから児童総合センターで見たのは、スタッフの方々が僕が制作時に考えていたことなどを参加者全員に自分の言葉で伝えてくださり、またそれをきっかけにして「なりたい自分に変身マスク」というあそびのプログラムに展開してくれていたことでした。なにごとにおいてもきっかけは大事です。僕の仮面をチラチラ見つつ、スタッフの話聞いた子どもたちは、ものすごいキョイで粘土とぶつかりつづつそれぞれの変身マスクを生みだしていました。そこで思ったんです。僕の作ったもの、スタッフさん、あの場所、こども、大人、あそび・「今、すべてがつながっている」のだと。そして、僕の作ったものもなんらかの意味で生かされているのだなあとその時初めて思えたのでした。きっとただ作品を展示しているだけならこども深く関われなかったのではないのでしょうか。振り返れば実に新しい発見の多い「てらんかい」でした。やっぱり作る事って、なにが起きるかわからなくてやめられないですね。

中根理さんより —

愛知県児童総合センターの魅力はなんといっても、毎日不特定多数のさまざまな年齢層の家族がたくさん訪れ、センター独自の遊びを通して、参加者全員でワクワクするような遊びの環境がつけられていることです。私の作品も、この子どもたちのあふれるエネルギーを貸してもらうことで、作品の一部をつくっていただけらと思、「おちば」を1枚、1枚つづつ置いていってました。1枚ではただの紙切れでもないものが何千枚と集まることで「みんなの森」ができたように思います。そこで子どもたちが「おちば」をすくって投げヒラヒラと真白な落ち葉が舞う中を寝転がりたりして、遊んでいる様子が本当に素敵でした。美術館やギャラリーとはまた違った魅力を持つ児童総合センターで展示でき私自身もとても楽しく参加させてもらえました。

春の特別企画「なんだかうれしい! 2011」(2011年3月19日から5月8日)では、「なんだかうれしい!てらんかい」を開催。19人のアーティストが館内のさまざまな場所を活用して作品を展示しました。まず館内のあちこちにある作品を探しだすこと自体が遊びです。また作品を見て思ったり感じたりしたことを互いに伝え合うことは、親子の新鮮な会話の場となりました。さりげなく展示された作品をみつめて、そしてよく見てみると、おもわず「ハッ」としてココロが動きます。また作品に直接触れることや、みんながつくったものが集まることで作品の一部となる体験は、アートと関わることそのものが「遊び」になる瞬間です。「作品」と「遊び」が結びつき、さまざまな「なんだかうれしい」を感じるきっかけとしての「環境」になったようです。

愛知県児童総合センターでは、1996年の開館以来、子どもたちの想像力を刺激する遊びの仕掛けとして「アート」に着目してきました。「アート」は私たちに、今まで体験したことのないような新しい感覚の世界や新鮮な視点を提示してくれる。子どもも大人もともに、これまで「あたりまえ」と思っていた身の回りのあらゆる「もの」や「こと」を見直すきっかけとなります。また、正解は一つではなく「人とちがっていいんだよ」と、多様な問題解決の方法も示してくれます。

福永照久さんより —

古今東西、様々なアート作品を、公共空間など日常的な空間にさらけだしたら、人々はその大半を作品とは思わないだろう。これは、卑下しているわけではなく、本来そういうモノだからである。僕はアートの教育的効果などについては、正直よくわからない。ただ、個人的な意見としては、遊びにせよ何にせよ、「考えなくても向こうからこちらへやって来るモノ」には、ろくなものがないと思っている。愛知児童総合センターの企画は、子どもたちが皆、能動的にかかわらないと楽しむことができない、何が楽しいのかも自分で考える、という面白さがある。そういった空間、時間は今の時代、他にあまりないように思う。画廊や美術館のような、作品を守る「城壁」をとりはらうことは、率直にいうと不安な面もある。しかし、日常的な空間でのアート作品との対峙は、「考えなくても向こうからこちらへやって来るモノ」が、あまりにあふれた世の中で、子どもたちにとって大変貴重な経験になるだろう。



第2回

元気スイッチ on!! あつまれ! あいちのじどうかん

愛知県内には約300館の児童館があります。その「児童館」すべてが集まる、交流・研修大会が、3月12日(土)、13日(日)に名古屋市内で開催されました。



「出前じどうかんーあそびばー」オープン

県内12の市町の児童館が栄のオアシス21に集結し、のべ6,880人のみなさんにイチオシの遊びを体験してもらいました。会場では、身近な材料を使った工作や、その場で体験できるゲーム、親子ヨガなど様々な遊びを楽しむ親子、新しい遊びの情報交換をする児童館職員の姿も見られました。遊びを楽しむだけでなく、連携を深めるネットワーク作りの場にもなりました。栄ガスホールでは、振付師・ダンスコーディネーターのババイヤ鈴木さんの子育てトークも開催され、子育ては「親と子の育て合いだ」という、ババイヤさんの体験に基づいた考えが紹介されました。

児童館職員を中心とした研修会 ～「児童館ガイドライン」に注目しながら～

基調講演では、これからの児童館が地域の子育て支援拠点として、どのような役割や機能を持つと良いのかを考える機会となりました。基調講演終了後は、子育て中の親支援、地域社会とのネットワークづくり、発達障がいを持つ子どもたちへの理解を深めるなど、子どもをとりまく様々な環境から選ばれたテーマをもとに、6つの分科会が開催されました。日々の活動をもとにした具体的な事例での分科会ということもあり、熱心なディスカッションを行なう児童館職員たちの姿が見られました。



児童館とは

0歳から18歳未満の子どもたちの居場所で、遊びをきっかけにして、子どもたちの生きる力を育む活動をしています。放課後に遊びに来る小学生だけでなく、中学生、高校生の居場所にもなります。また、平日の午前中には、未就園の子どもと保護者を対象にした事業なども展開しています。保護者が仕事などで昼間家庭にいない小学生の放課後の居場所になる放課後児童クラブを併設している児童館もあります。愛知県は、全国で3番目に児童館が多い県です。



各地域で活動している児童館でのエピソードが「あいちのじどうかん ちょっとイイ話」という1冊の本になりました。児童総合センターで配布しています。この1冊をきっかけに、近くの児童館に足を運んでみてください。

3.11と子どもたち

3月、本当に大きな災害が起こりました。地震、津波に加え、放射線、被災された方々、心よりお見舞い申し上げます。この地方にいられしやった方々とはもちろん、それぞれのところでご苦労されていらっしゃる方々と、手を携えていきたいと思っています。どうぞ、何なりとお声に出してください。

この災害で、多くのことを感じました。そのひとつが、子どもたちの力です。悲しさや、怒り、おびえ、不安に押しつぶされそうなお子どもたちがいることはもちろん心に置いて。それでも、いち早く笑顔を見せてくれた子どもたち、その笑顔がどんなに大人たちを勇気付けたことか、子どもたちが、今を生きて、明日を生きて、強さと輝きを見せてくれました。子どもたちが、今自分の出来ることを、自分で考えて行動する、そんな姿に、人間の本質を見たいように思います。少し大きい子どもたちは、避難所の掃除や、物資の配布、もっと大きい子どもたちは、情報の整理や、瓦礫の片付け、小学校低学年の子どもたちや、まだ学校に行っていない子どもたちが、肩たたきボランティア

子育てのおはなし

4

臨床心理士 後藤かをり

ACCのココがすき!



畑プロジェクトの参加者に聞いてみました。

畑でスタッフの人と野菜を収穫するところが好きです。木村匠汰さん



チャレンジタワーのにおいが好きです。木村旬哉さん

館内にチャレンジタワーがあって、毎月あそびが変わるのも面白いです。榎矢太輔さん



チャレンジタワーの展望台、景色がみられてきれいです。畑プロジェクトでつくる野菜スープが大好きです。榎矢太輔さん

土日は子どもと3人なので、小学男子2名いつも体力を持て余している我が家。午前中は畑仕事で汗を流し、収穫した野菜で料理、楽しく、美味しく食べてお昼ごはんを食べ、その後はチャレンジタワーで遊び、1日中楽し過ごせるので大好きです! 木村友紀さん

隠れた存在の畑で、採れたての野菜を食べられることがとても楽しみです。家で、なかなか使わせられない包丁や火子どもに任せももらえるのも難しいです。あと、子どもたちが作ったものを組み合わせる芸術的に展示してあるのが、いつも感心します。榎矢太輔さん

募集とお知らせ

親子であそぶ「トコトコプログラム」

「大人が楽しいと子どもはうれしい」を合言葉に、小さな子どもとお母さんやお父さんが楽しむプログラムです。見る、触るなどの感覚的な遊びを中心にいろいろな遊びを親子で体験します。



「つみきであそぶ」

対象：1歳から3歳の未就園の子どもとその親
定員：15組程度
参加費：無料(児童総合センター入場料300円が必要)
参加方法：プログラム開始30分前から1Fインフォメーションで受付。定員になり次第終了

7/6(水) 音であそぶ 11:00-11:30
7/13(水) つみきであそぶ 14:30-15:00
※プログラムは予告なく変更することがありますので、HPをご確認ください。

「孫とのじかん」祖父母力アップ講座 参加者募集

おじいちゃんだからできること、おばあちゃんだからできること、わたしたちからできること、孫との大切なじかんを、私らしく過ごすヒントを見つけにきませんか? 講義と実践の2回連続の講座です。



○1回目・9/21(水) 13:30-15:30
講義「ほんとうに大切なこと」
講師：後藤かをりさん(臨床心理士)
歳を重ねてきたからこそ知った「大切なこと」を、歳を重ねているからこそ得た自由な立場で、大切な孫たちに伝えたい。それぞれの「本当に大切なこと」を分かち合ひしよう。

○2回目・10/5(水) 13:30-15:30
実践「ちいさな子どもたちとあそぼう」
来館者の子どもたちとあそびます。たくさん絵本に囲まれて、カラダを動かしたり、お話を楽しんだり… ゆったりと過ごします。

対象：おじいちゃん、おばあちゃん 定員：15名
参加費：無料(児童総合センター入場料300円が必要)
申込み方法：8/10(水)から電話にて受付開始
定員になり次第締め切ります。

「移動児童館・ゆめたま号」

～7月・10月の開催地決定～

児童総合センターの遊びを「ゆめたま号」に乗せて児童館へ運び、現地のスタッフも加わって地域の子どもと大人が一線になって遊ぶプログラムです。遊びをとおして、たくさんのお会いを楽しみにしています。



「おみくじ」

○開催地
7/20(水) 飛島村/飛島村児童館
7/29(金) 常滑市/常滑児童センター
8/16(火) 知立市/南児童センター
8/20(土) 豊川市/こぎかい児童館
8/24(水) 長久手町/長久手南児童館
8/31(水) 岩倉市/第五児童館
9/10(土) 大府市/共長児童センター
9/15(水) 東郷町/南部児童館
9/22(水) 蒲郡市/みや児童館
9/30(金) 蟹江町/新蟹江児童館
10/18(火) 新城市/千郷東子育て支援センター
※参加につきましては、各施設へお問い合わせください。

問合せ・申込み先

愛知県児童総合センター
http://www.acc-aichi.org/
TEL 0561-63-1110
くわしはホームページまたは募集チラシをご確認ください